

「ICU 部門提出データの概要と作成の手引き (Ver3.4)」 改訂箇所

2025 年 5 月

	変更前	変更後
24 頁、5 提出データの修正 2.キーコードを修正する場合または一部の患者を削除する場合	<p>上書き修正ができません。 事務局で該当期間(半期ごと)のデータを削除した後に、修正後の報告ファイルを Web 送信することで修正されます。 JANIS 事務局に該当期(半期ごと)を明記してデータ削除を依頼してください。</p>	<p>上書き修正ができません。 該当期間(半期ごと)のデータを削除した後に、修正後の報告ファイルを Web 送信することで修正されます。 参加医療機関専用サイト内「データ削除」の画面で、年を指定して該当期間のデータを削除してください。</p>

「ICU 部門提出データの概要と作成の手引き (Ver3.3)」 改訂箇所

2023 年 1 月

	変更前	変更後
8 頁、バージョン情報 対応表		※バージョン情報 V231 に対応するソ フトに Ver.5.1 を追加

「ICU 部門提出データの概要と作成の手引き (Ver3.2)」 改訂箇所

2021 年 4 月 12 日

	変更前	変更後
8 頁、バージョン情報 対応表		※バージョン情報 V231 に対応するソ フトに Ver.5.0 を追加

「ICU 部門提出データの概要と作成の手引き (Ver3.0)」 改訂箇所

2018 年 10 月 18 日

	変更前	変更後
8 頁、上から 15 行目	入力支援ソフト Ver.3.1、Ver.3.2、Ver.3.3	入力支援ソフト Ver.3.1、Ver.3.2、Ver.3.3、Ver.4.0
9 頁、上から 1 行目	(3.2 削除データ項目 No.2「報告時キー」参照)	削除
9 頁、下から 4 行目	項目 No.11 「ICU 入室時間」 【必須】	項目 No.11 「ICU 入室時間」
9 頁、下から 2 行目		※追加 必須項目ではありませんが、それぞれのレコードを識別するための項目(キーコード)となっており、未入力の場合は 00:00 に設定されます。同日に同一患者が ICU 入退室を繰り返している場合は、キーコードの重複を避けるためにこの項目を設定してください。
24 頁、上から 4 行目	提出ファイルの各レコードには、キーコードと呼ばれるそれぞれのレコードを識別するために必須の項目があります。	提出ファイルの各レコードには、キーコードと呼ばれるそれぞれのレコードを識別するための項目があります。

「ICU 部門提出データの概要と作成の手引き (Ver2.0)」 改訂箇所

2017 年 9 月 20 日

	変更前	変更後
6 頁、上から 2 行目	参加医療機関向けページ	参加医療機関専用サイト
6 頁、下から 3 行目	http://www.nih-janis.jp/	https://janis.mhlw.go.jp/
7 頁、下から 7 行目	JANIS センター側では、	JANIS システムでは、
8 頁、上から 5 行目	※タイトル 3.1 通常提出データ	削除
9 頁、上から 5 行目	3.2 削除データ参照)	削除
9 頁、上から 14 行目	<p>万が一報告ファイルの情報が漏洩した際にも、患者が第三者から特定できないように、院内で使用している ID を特定の規則(またはシステム)で暗号化するなど、院内使用の患者 ID 等以外の値を設定して下さい。</p> <p>ただし、ここで設定された ID で JANIS 運営委員会等から問い合わせがあった際には、院内で管理している情報と照らし合わせるようにして下さい。</p>	<p>なお、個人が特定される可能性があるため院内で使用している ID やコードをそのまま設定することは避け、必ず新たに任意の患者 ID を割り振るようにしてください。</p> <p>ただし JANIS 事務局からの問い合わせに備え、任意の患者 ID がどの患者であるかを医療機関で識別ができるようにデータを管理しておく必要があります。</p>
10 頁、下から 10 行目	JANIS で部位コード	治療部位コード
11 頁、下から 7 行目	<p>※この血圧点数の算出について入力支援ソフトでは以下の支援を行っています。</p> <p>収縮期血圧、拡張期血圧を入力すると、平均血圧(収縮期血圧+拡張期血圧×2)÷3 の計算を行います。これは 3 組まで入力でき、この計算結果のもっとも大きいものをもとにして APACHE 画面のポイントボタンに自動反映します。</p>	削除

12 頁、上から 20 行目	<p>※この Oxy 点数の算出について入力支援ソフトでは以下の支援を行っています。</p> <p>FI02、PaO2、PaCO2 を入力すると、酸素化 (A-aDO2) の計算 ($fio2 \times 713 - paco2 \div 0.8 - pao2$)を行います。これは 3 組まで入力でき、この計算結果のもっとも大きいものをもとにして APACHE 画面のポイントボタンに自動反映します。</p>	削除
13 頁、上から 13 行目	<p>この急性腎不全の判定、情報反映について入力支援ソフトでは、項目 No.21 主傷病名、項目 No.22 入院時主病名、項目 No.23 入室時主病名などとはリンクせず、APACHE 入力画面中に“腎不全”ボタンを設けてこれを押されたときに 2 倍加点とします。</p>	削除
全頁	JANIS の菌名コード	菌名コード (ICU 部門用)
23 頁上から 14 行目	<p>※タイトルおよび本文</p> <p>3.1 削除データ</p>	(削除)
23 頁、上から 3 行目	<p>このデータでは、3 項目目が NULL となっているもの (通常提出データ) が 2 件、1 となっているもの (削除データ) が 1 件あり、この期の報告では退室情報 2 件と過去分削除情報 1 件が生成されています。</p>	<p>削除</p> <p>※キャプチャ差替</p>
24 頁、上から 1 行目		<p>※新設</p> <p>5・提出データの修正</p>
24 頁、下から 9 行目	5.最後に	6.最後に

<p>24 頁、下から 7 行目</p>	<p>入力支援ソフト本体や、「報告ファイル取込」機能の説明が記載されているマニュアルは、JANIS 参加医療機関向けページの「ダウンロード」画面よりダウンロードできます。</p> <p>また、JANIS のデータ送信試験サイトにて、報告ファイルのテスト送信を行うこともできます。</p> <p>詳しくは JANIS サイトに公開されている、JANIS 事務局までお問い合わせ下さい。</p>	<p>入力支援ソフトや、マニュアルは、JANIS 参加医療機関専用サイトの「ソフト/マスタ/資料等」よりダウンロードできます。</p> <p>また、作成した報告ファイルを、JANIS データ送信試験サイトにて、テスト送信を行うこともできます。</p> <p>詳しくは JANIS 事務局までお問い合わせ下さい。</p> <p>お問い合わせフォーム https://janis.mhlw.go.jp/contact/index.html</p>
----------------------	---	---

「ICU 部門提出データの概要と作成の手引き (Ver1.5)」 改訂箇所

2014 年 8 月 29 日

	変更前	変更後
1 頁、下から 1 行目	2012 年 4 月	データフォーマット(Ver1.3)対応 2014 年 8 月
7 頁、上から 7 行目	また、別資料として公開している「ICU 部門データフォーマット」、「耐性菌判断表」も併せてご参照下さい。	また、別資料として公開している「ICU 部門データフォーマット」も併せてご参照下さい。
7 頁、上から 9 行目	なお JANIS サイトの URL を以下に示します。	JANIS サイトの URL を以下に示します。
7 頁、上から 11 行目		なお、[必須]、[条件つき必須]の記載がない項目については、現在の調査対象では無いため集計には使用しておりません。設定する必要はありませんのでご注意下さい。
8 頁、上から 3 行目	ICU 退室患者情報の ICU 退室日を基準として 6 ヶ月分(1 月から 6 月、7 月から 12 月)単位で生成しますが、過去に提出したデータの削除やキー情報(患者 ID+ICU 入室日時)の変更などを JANIS システムに報告するためのデータも含まれます。 入力支援ソフトでは、この削除や変更の情報が報告データ作成時に自動的に含まれますので、既存システム等のデータを再利用することによってデータを生成する場合は後述の“削除データ”作成基準を参照ください。	ICU 退室患者情報の ICU 退室日を基準として 6 ヶ月分(1 月から 6 月、7 月から 12 月)単位で生成します。
9 頁、上から 4 行目		項目 No.1「バージョン情報」下

	変更前	変更後
		に移動
9 頁、下から 7 行目	なお、この原因菌については別添の「耐性菌判断表」に記載のように感受性試験の使用薬剤が予め決められておりそれぞれに S、I、R で設定しますが、耐性菌判断表に記載のない起炎菌については感受性試験結果の報告は必要ありません。	削除
9 頁、下から 10 行目	同一の患者様が同じ日に退室、再入室した場合は別患者扱い(別データ)とします。 一回の入室中の感染症情報は、同一感染症について 3 症例まで設定でき、それぞれについて起炎菌も 3 種類まで設定できます。	同一の患者が同じ日に退室、再入室した場合は別患者扱い(別データ)とします。 一回の入室中の感染症情報は、同一感染症について 3 件まで設定でき、それぞれについて原因菌も 3 種類まで設定できます。
9 頁、下から 2 行目	メッセージバージョンを示します。菌名コードや抗菌薬コード、またシステムの仕様が改修される場合には変更になる場合があります。各項目の詳細と注意点を参照ください。	削除
9 頁、上から 4 行目	菌名コードや抗菌薬コードなどの更新時にはバージョンの変更が必要となります。	菌名コードなどの更新時にはバージョンの変更が必要となります。
9 頁、上から 5 行目	2013 年 12 月現在、菌名コードが Ver.4.0 であり、これに対応するバージョンは V231 です。	削除
10 頁、上から 14 行目	削除データでは、後述のように“1”を設定します(3.2 削除データ項目 No.3「削除フラグ」参照)	(この項目は、2010 年 5 月に廃止した削除データ機能運用時に使用していました。3.2 削除データ参照)
10 頁、上から 16 行目	項目 No.4 「調査対象」【必須】	項目 No.4 「調査対象」
10 頁、上から 17 行目	この項目は必ず“3”を設定しま	この項目は “3”を設定します

	変更前	変更後
	す	
10 頁、下から 11 行目	患者を識別する ID を 15 文字以内 (@、カンマ(,)以外)で設定します。	患者を識別する ID を 15 文字以内 (@、カンマ(,)以外)で設定します。大文字と小文字の区別はしません。
11 頁、上から 13 行目	一般病棟⇒1、手術室⇒2、救急外来⇒3、他院転院⇒4、検査室等⇒5	一般病棟⇒1、手術室⇒2、救急外来⇒3、他院転院⇒4、検査室等⇒5
11 頁、下から 9 行目	手術の有無を、有り⇒1、無し⇒2で設定してください。	手術の有無を、有り⇒1、無し⇒2で設定してください。
		全体的に数字を半角に変更
16 頁、上から 15 行目	肺炎無し	肺炎有無
16 頁、上から 17 行目	※ この項目 No.26 「肺炎無し」が1(有り)のときに	この項目 No.26 「肺炎有無」が1(有り)のときに
16 頁、上から 18 行目	なお、肺炎が複数見つかった場合には、3 種類までの場合は肺炎1から肺炎3にその情報を設定し、4種類以上の場合には代表的な3種類を選択の上設定してください。	なお、肺炎を複数回発症した場合には、3 件までのであれば肺炎1から肺炎3にその情報を設定し、4 件以上の場合には主な3 件を選択の上設定してください。
16 頁、上から 21 行目	項目 No.27 「肺炎1:該当/非該当」(項目 No.26 「肺炎無し」が“1”のとき必須)	項目 No.27 「肺炎1:該当/非該当」【条件つき必須】(項目 No.26 「肺炎有無」が“1”のとき必須)
16 頁、下から 11 行目	1 症例目の肺炎情報について、ICU 部門判定基準(JANIS ホームページ掲載)の条件に合致した場合に(該当)⇒1、合致しなかった場合に(非該当)⇒2を設定してください。	1 件目の肺炎情報について、ICU 部門感染症判定基準(JANIS ホームページ掲載)の条件に合致した場合に(該当)⇒1、合致しなかった場合に(非該当)⇒2を設定してください。
16 頁、下から 9 行目	項目 No.28 「肺炎1:診断日」(項目 No.27 「肺炎1:該当/非該当」が“該当”のとき必須)	項目 No.28 「肺炎1:診断日」【条件つき必須】(項目 No.27 「肺炎1:該当/非該当」が“1”のとき必須)
16 頁、下から 8 行目	「肺炎1:該当/非該当」が“該	項目 No.27「肺炎1:該当/非該

	変更前	変更後
	当”のときにその診断日を[YYYYMMDD]の形式で設定して下さい。	当」が“1”(該当)のときにその診断日を[YYYYMMDD]の形式で設定して下さい。
16 頁、下から 6 行目	項目 No.29 「肺炎1:培養検査無し」	項目 No.29 「肺炎1:培養検査有無」【条件つき必須】(項目 No.27 「肺炎1:該当/非該当」が“1”のとき必須)
16 頁、下から 5 行目	「肺炎1:該当/非該当」が“該当”のときに、その培養検査の有無を、有り⇒1、無し⇒2で設定して下さい。	項目 No.27「肺炎1:該当/非該当」が“1”(該当)のときに、その培養検査の有無を、有り⇒1、無し⇒2で設定して下さい。
16 頁、下から 3 行目	項目 No.30 「肺炎1:菌無し」	項目 No.30 「肺炎1:菌分離有無」【条件つき必須】(項目 No.29 「肺炎1:培養検査有無」が“1”のとき必須)
16 頁、下から 2 行目	「肺炎1:該当/非該当」が“該当”で、「肺炎1:培養検査無し」が“有り”のときに、その菌の有無を、有り⇒1、無し⇒2で設定して下さい。	項目 No.29「肺炎1:培養検査有無」が“1”(有り)のときに、その菌の有無を、有り⇒1、無し⇒2で設定して下さい。
17 頁、上から 1 行目	項目 No.31 「肺炎1/菌1:起炎菌」	項目 No.31 「肺炎1/菌1:原因菌」【条件つき必須】(項目 No.30 「肺炎1:菌分離有無」が“1”のとき必須)
17 頁、上から 2 行目	「肺炎1:該当/非該当」が“該当”で、「肺炎1:培養検査無し」が“有り”、「肺炎1:菌無し」が“有り”のとき JANIS の菌名コード(JANIS ホームページ公開の菌名コード表参照)を設定して下さい。 菌が複数見つかった場合には、3 種類までの場合は菌1から菌3にその情報を設定し、4種類以上の場合には代表的な3種	項目 No.30 「肺炎1:菌分離有無」が“1”(有り)のとき JANIS の菌名コード(JANIS ホームページ公開の菌名コード表参照)を設定して下さい。 菌が複数検出された場合には、3 種類までの場合は菌1から菌3にその情報を設定し、4種類以上の場合には代表的な3種類を選択の上設定して下さい。

	変更前	変更後
	類を選択の上設定してください。	
17 頁、上から 7 行目	※「耐性菌判断表」に記載の起炎菌を選択した場合、耐性有無の判定基準薬剤の感受性試験結果は必須となります。(菌2、菌3および肺炎2、肺炎3も同様)	削除
17 頁、上から 10 行目	「肺炎1:該当/非該当」が“該当”で、「肺炎1:培養検査無し」が“有り”、起炎菌が見つかった場合の検体番号を(わかれば)設定して下さい。	項目 No.31「肺炎1/菌1:原因菌」で登録した菌が検出された検体番号を設定して下さい。
17 頁、上から 12 行目	項目 No.33「肺炎1/菌1:感受性試験無し」	項目 No.33「肺炎1/菌1:感受性試験有無」【条件つき必須】(項目 No.31「肺炎1/菌1:原因菌」が“1301”のとき必須)
17 頁、上から 13 行目	「肺炎1:該当/非該当」が“該当”で、「肺炎1:培養検査無し」が“有り”、起炎菌が見つかった場合の感受性試験の実施有無を、有り⇒1、無し⇒2で設定して下さい。	項目 No.31「肺炎1/菌1:原因菌」で登録した菌の感受性試験の実施有無を、有り⇒1、無し⇒2で設定して下さい。
17 頁、上から 15 行目	項目 No.34「肺炎1/菌1:薬剤名1」～項目 No.51「肺炎1/菌1:薬剤名18」	項目 No.34「肺炎1/菌1:薬剤名1」～項目 No.51「肺炎1/菌1:薬剤名18」【条件つき必須】(項目 No.33「肺炎1/菌1:感受性試験有無」が“1”のとき必須)

	変更前	変更後
17 頁、上から 16 行目	「肺炎 1: 該当/非該当」が“該当”で、「肺炎 1: 培養検査無し」が“有り”、起炎菌が見つかった場合で、「耐性菌判断表」により感受性試験が必要な薬剤を略名(「耐性菌判断表」に記載)で設定して下さい。	項目 No.31 「肺炎 1/菌 1: 原因菌」で登録した菌の感受性試験を実施した薬剤を略名で設定して下さい。
17 頁、下から 13 行目	項目 No. 52 「肺炎 1/菌 1 : 検査データ 1」～項目 No. 69 「肺炎 1/菌 1 : 検査データ 18」	項目 No.52 「肺炎 1/菌 1: 検査データ 1」～項目 No.69 「肺炎 1/菌 1: 検査データ 18」【条件つき必須】(項目 No.34 「肺炎 1/菌 1: 薬剤名 1」～項目 No.51 「肺炎 1/菌 1: 薬剤名 18」が“MPIPC”のとき対応する検査データは必須)
17 頁、下から 12 行目	「肺炎 1: 該当/非該当」が“該当”で、「肺炎 1: 培養検査無し」が“有り”、起炎菌が見つかった場合で、項目 No.34 から項目 No.51 の薬剤感受性試験結果をそれぞれ項目 No.52 から項目 No.69 に S/I/R で設定して下さい。	項目 No.34 から項目 No.51 の薬剤感受性試験結果をそれぞれ項目 No.52 から項目 No.69 に S/I/R で設定して下さい。
17 頁、下から 8 行目	「肺炎 1: 該当/非該当」が“該当”で、「肺炎 1: 培養検査無し」が“有り”、起炎菌が見つかった場合で、行った感受性試験の結果から耐性の有無を「耐性菌判断表」により、有り⇒1、無し⇒2、不明⇒3で設定して下さい。	「肺炎 1: 該当/非該当」が“該当”で、「肺炎 1: 培養検査有り無し」が“有り”、原因菌が見つかった場合で、行った感受性試験の結果から耐性の有無を有り⇒1、無し⇒2、不明⇒3で設定して下さい。(以前「耐性菌判断表」を用いた判断を調査していましたが、現在は終了しております。)
17 頁、下から 5 行目	項目 No. 71 「肺炎 1/菌 2 : 起	項目 No. 71 「肺炎 1/菌 2 : 原

	変更前	変更後
	炎菌」～項目 No. 110 「肺炎 1 /菌 2 : 耐性判断」	因菌」～項目 No. 110 「肺炎 1 /菌 2 : 耐性判断」
17 頁、下から 3 行目	項目 No.111 「肺炎1/菌3:起炎菌」～項目 No.150 「肺炎1/菌 3:耐性判断」	項目 No.111 「肺炎1/菌3:原因菌」～項目 No.150 「肺炎1/菌 3:耐性判断」
18 頁、下から 1 行目	項目 No.151 「肺炎2/菌1:起炎菌」～項目 No.274 「肺炎2/菌 3:耐性判断」	項目 No.151 「肺炎2/菌1:原因菌」～項目 No.274 「肺炎2/菌 3:耐性判断」
18 頁、下から 3 行目	項目 No.275 「肺炎3/菌1:起炎菌」～項目 No.398 「肺炎3/菌 3:耐性判断」	項目 No.275 「肺炎3/菌1:原因菌」～項目 No.398 「肺炎3/菌 3:耐性判断」
18 頁、上から 6 行目	項目 No.399 「尿路感染無し」 【必須】	項目 No.399 「尿路感染有無」 【必須】
18 頁、上から 8 行目	この項目 No.399 「尿路感染無し」が 1(有り)のときに、ICU 入室中の尿路感染情報を No.400 から No.771 に設定してください。	この項目 No.399 「尿路感染有無」が 1(有り)のときに、ICU 入室中の尿路感染情報を No.400 から No.771 に設定してください。
18 頁、上から 9 行目	なお、尿路感染が複数見つかった場合には、3 種類までの場合は尿路1から尿路3にその情報を設定し、4 種類以上の場合には代表的な3種類を選択の上設定してください。	なお、尿路感染を複数回発症した場合には、3 件までであれば尿路1から尿路3にその情報を設定し、4 件以上の場合には主な 3 件を選択の上設定してください。
18 頁、上から 12 行目	項目 No.400 「尿路1:該当/非該当」(項目 No.399 「尿路感染無し」が“1”のとき必須)	項目 No.400 「尿路1:該当/非該当」【条件つき必須】(項目 No.399 「尿路感染有無」が“1”のとき必須)
18 頁、上から 13 行目	1 症例目の尿路情報について、ICU 部門判定基準(JANIS ホームページ掲載)の条件に合致した場合に(該当)⇒1、合致しなかった場合に(非該当)⇒2を設定してください。	1 件目の尿路情報について、ICU 部門感染症判定基準(JANIS ホームページ掲載)の条件に合致した場合に(該当)⇒1、合致しなかった場合に(非該当)⇒2を設定してください。
18 頁、上から 15 行目	項目 No.401 「尿路1:診断日」	項目 No.401 「尿路1:診断日」

	変更前	変更後
	(項目 No.400「尿路1:該当/非該当」が“該当”のとき必須)	【条件つき必須】(項目 No.400「尿路1:該当/非該当」が“1”のとき必須)
18頁、上から17行目	「尿路1:該当/非該当」が“該当”のときにその診断日を[YYYYMMDD]の形式で設定して下さい。	項目 No.400「尿路1:該当/非該当」が“1”(該当)のときにその診断日を[YYYYMMDD]の形式で設定して下さい。
18頁、下から14行目	項目 No.402「尿路1:培養検査無し」	項目 No.402「尿路1:培養検査有無」【条件つき必須】(項目 No.400「尿路1:該当/非該当」が“1”のとき必須)
18頁、下から13行目	「尿路1:該当/非該当」が“該当”のときに、その培養検査の有無を、有り⇒1、無し⇒2で設定して下さい。	項目 No.400「尿路1:該当/非該当」が“1”(該当)のときに、その培養検査の有無を、有り⇒1、無し⇒2で設定して下さい。
18頁、下から11行目	項目 No.403「尿路1:菌無し」	項目 No.403「尿路1:菌分離有無」【条件つき必須】(項目 No.402「尿路1:培養検査有無」が“1”のとき必須)
18頁、下から10行目	「尿路1:該当/非該当」が“該当”で、「尿路1:培養検査無し」が“有り”のときに、その菌の有無を、有り⇒1、無し⇒2で設定して下さい。	項目 No.402「尿路1:培養検査有無」が“1”(有り)のときに、その菌の有無を、有り⇒1、無し⇒2で設定して下さい。
18頁、下から8行目	項目 No.404「尿路1/菌1:起炎菌」	項目 No.404「尿路1/菌1:原因菌」【条件つき必須】(項目 No.403「尿路1:菌分離有無」が“1”のとき必須)

	変更前	変更後
18 頁、下から 7 行目	<p>「尿路1:該当/非該当」が“該当”で、「尿路1:培養検査無し」が“有り”、「尿路1:菌無し」が“有り”のとき JANIS の菌名コード(JANIS ホームページ公開の菌名コード表参照)を設定して下さい。</p> <p>菌が複数見つかった場合には、3 種類までの場合は菌1から菌3にその情報を設定し、4 種類以上の場合には代表的な3種類を選択の上設定して下さい。</p>	<p>項目 No.403 「尿路1:菌分離有無」が“1”(有り)のとき JANIS の菌名コード(JANIS ホームページ公開の菌名コード表参照)を設定して下さい。</p> <p>菌が複数検出された場合には、3 種類までの場合は菌1から菌3にその情報を設定し、4 種類以上の場合には代表的な3 種類を選択の上設定して下さい。</p>
18 頁、下から 2 行目	<p>「耐性菌判断表」に記載の起炎菌を選択した場合、耐性有無の判定基準薬剤の感受性試験結果は必須となります。(菌2、菌3 および尿路2、尿路3も同様)</p>	削除
19 頁、上から 2 行目	<p>「尿路1:該当/非該当」が“該当”で、「尿路1:培養検査無し」が“有り”、起炎菌が見つかった場合の検体番号を(わかれば)設定して下さい。</p>	<p>項目 No.404 「尿路1/菌1:原因菌」で登録した菌が検出された検体番号を設定して下さい。</p>
19 頁、上から 4 行目	<p>項目 No.406 「尿路1/菌1:感受性試験無し」</p>	<p>項目 No.406 「尿路1/菌1:感受性試験有無」【条件つき必須】(項目 No.404 「尿路1/菌1:原因菌」が“1301”のとき必須)</p>
19 頁、上から 5 行目	<p>「尿路1:該当/非該当」が“該当”で、「尿路1:培養検査無し」が“有り”、起炎菌が見つかった場合の感受性試験の実施有無を、有り⇒1、無し⇒2で設定して下さい。</p>	<p>項目 No.404 「尿路1/菌1:原因菌」で登録した菌の感受性試験の実施有無を、有り⇒1、無し⇒2で設定して下さい。</p>

	変更前	変更後
19 頁、上から 7 行目	項目 No.407「尿路1/菌1:薬剤名 1」～項目 No.424「尿路1/菌1:薬剤名 18」	項目 No.407「尿路1/菌1:薬剤名 1」～項目 No.424「尿路1/菌1:薬剤名 18」【条件つき必須】(項目 No.406「尿路1/菌1:感受性試験有無」が“1”のとき必須)
19 頁、上から 8 行目	「尿路1:該当/非該当」が“該当”で、「尿路1:培養検査無し」が“有り”、起炎菌が見つかった場合で、「耐性菌判断表」により感受性試験が必要な薬剤を略名(「耐性菌判断表」に記載)で設定して下さい。	項目 No.404「尿路1/菌1:原因菌」で登録した菌の感受性試験を実施した薬剤を略名で設定して下さい。
19 頁、下から 19 行目	項目 No. 425 「尿路 1/菌 1 : 検査データ 1」～項目 No. 442 「尿路 1/菌 1 : 検査データ 18」	項目 No. 425 「尿路 1/菌 1 : 検査データ 1」～項目 No. 442 「尿路 1/菌 1 : 検査データ 18」【条件つき必須】(項目 No.407「尿路1/菌1:薬剤名 1」～項目 No.424「尿路1/菌1:薬剤名 18」が“MPIPC”のとき対応する検査データは必須)
19 頁、下から 18 行目	「尿路1:該当/非該当」が“該当”で、「尿路1:培養検査無し」が“有り”、起炎菌が見つかった場合で、項目 No.407 から項目 No.424 の薬剤感受性試験結果をそれぞれ項目 No.425 から項目 No.442 に S/I/R で設定して下さい。	項目 No.407 から項目 No.424 の薬剤感受性試験結果をそれぞれ項目 No.425 から項目 No.442 に S/I/R で設定して下さい。
19 頁、下から 14 行目	「尿路1:該当/非該当」が“該当”で、「尿路1:培養検査無し」が“有り”、起炎菌が見つかった場合で、行った感受性試験の結果から耐性の有無を	「尿路1:該当/非該当」が“該当”で、「尿路1:培養検査有無」が“有り”、原因菌が見つかった場合で、行った感受性試験の結果から耐性の有無を有り

	変更前	変更後
	「耐性菌判断表」により、有り⇒1、無し⇒2、不明⇒3で設定して下さい。	⇒1、無し⇒2、不明⇒3 で設定して下さい。(以前「耐性菌判断表」を用いた判断を調査していましたが、現在は終了しております。)
19 頁、下から 11 行目	項目 No.444 「尿路1/菌2:起炎菌」～項目 No.483 「尿路1/菌2:耐性判断」	項目 No.444 「尿路1/菌2:原因菌」～項目 No.483 「尿路1/菌2:耐性判断」
19 頁、下から 9 行目	項目 No.484 「尿路1/菌3:起炎菌」～項目 No.523 「尿路1/菌3:耐性判断」	項目 No.484 「尿路1/菌3:原因菌」～項目 No.523 「尿路1/菌3:耐性判断」
19 頁、下から 6 行目	項目 No.524 「尿路2/菌1:起炎菌」～項目 No.647 「尿路2/菌3:耐性判断」	項目 No.524 「尿路2/菌1:原因菌」～項目 No.647 「尿路2/菌3:耐性判断」
19 頁、下から 3 行目	項目 No.648 「尿路3/菌1:起炎菌」～項目 No.771 「尿路3/菌3:耐性判断」	項目 No.648 「尿路3/菌1:原因菌」～項目 No.771 「尿路3/菌3:耐性判断」
20 頁、上から 1 行目	項目 No.772 「カテ血流感染無し」【必須】	項目 No.772 「カテ血流感染有無」【必須】
20 頁、上から 3 行目	この項目 No.772 「カテ血流感染無し」が1(有り)のときに、ICU入室中のカテ血流感染情報をNo.773からNo.1144に設定してください。なお、カテ血流感染が複数見つかった場合には、3種類までの場合は血流1から血流3にその情報を設定し、4種類以上の場合には代表的な3種類を選択の上設定してください。	この項目 No.772 「カテ血流感染有無」が1(有り)のときに、ICU入室中のカテ血流感染情報をNo.773からNo.1144に設定してください。なお、カテ血流感染を複数回発症した場合には、3件までであれば血流1から血流3にその情報を設定し、4件以上の場合には主な3件を選択の上設定してください。
20 頁、上から 7 行目	項目 No.773 「血流1:該当/非該当」(項目 No.772 「カテ血流感染無し」が“1”のとき必須)	項目 No.773 「血流1:該当/非該当」【条件つき必須】(項目 No.772 「カテ血流感染有無」が“1”のとき必須)
20 頁、上から 9 行目	1症例目の血流情報について、	1件目の血流情報について、ICU

	変更前	変更後
	ICU 部門判定基準(JANIS ホームページ掲載)の条件に合致した場合に(該当)⇒1、合致しなかった場合に(非該当)⇒2を設定してください。	部門感染症判定基準(JANIS ホームページ掲載)の条件に合致した場合に(該当)⇒1、合致しなかった場合に(非該当)⇒2を設定してください。
20 頁、上から 11 行目	項目 No. 774 「血流 1 : 診断日」(項目 No. 773 「血流 1 : 該当/非該当」が“該当”のとき必須)	項目 No. 774 「血流 1 : 診断日」【条件つき必須】(項目 No. 773 「血流 1 : 該当/非該当」が“1”のとき必須)
20 頁、上から 13 行目	「血流 1 : 該当/非該当」が“該当”のときにその診断日を [YYYYMMDD] の形式で設定して下さい。	項目 No. 773「血流 1 : 該当/非該当」が“1”(該当)のときにその診断日を [YYYYMMDD] の形式で設定して下さい。
20 頁、上から 15 行目	項目 No.775 「血流 1 : 培養検査無し」	項目 No.775 「血流 1 : 培養検査有無」【条件つき必須】(項目 No. 773 「血流 1 : 該当/非該当」が“1”のとき必須)
20 頁、上から 16 行目	「血流 1 : 該当/非該当」が“該当”のときに、その培養検査の有無を、有り⇒1、無し⇒2で設定して下さい。	No. 773「血流 1 : 該当/非該当」が“1”(該当)のときに、その培養検査の有無を、有り⇒1、無し⇒2 で設定して下さい。なお、「血流 1 : 該当/非該当」が“1”(該当)のとき、培養検査有無“2”(無し)は設定できません。
20 頁、下から 14 行目	項目 No.776 「血流 1 : 菌無し」	項目 No.776 「血流 1 : 菌分離有無」【条件つき必須】(項目 No.775 「血流 1 : 培養検査有無」が“1”のとき必須)
20 頁、下から 13 行目	「血流 1 : 該当/非該当」が“該当”で、「血流 1 : 培養検査無し」が“有り”のときに、その菌の有無を、有り⇒1、無し⇒2で設定して下さい。	項目 No.775 「血流 1 : 培養検査有無」が“1”(有り)のときに、その菌の有無を、有り⇒1、無し⇒2 で設定して下さい。なお、「血流 1 : 該当/非該当」が“1”(該当)のとき、菌分離有無“2”(無し)は設定できません。

	変更前	変更後
20 頁、下から 11 行目	項目 No.777 「血流1/菌1:起 炎菌」	項目 No.777 「血流1/菌1:原 因菌」【条件つき必須】(項目 No.776 「血流1:菌分離有無」 が “1” のとき必須)
20 頁、下から 10 行目	「血流1:該当/非該当」が“該 当”で、「血流1:培養検査無し」 が“有り”、「血流1:菌無し」が “有り”のとき JANIS で菌名コー ド(JANIS ホームページ公開の 菌名コード表参照)を設定して 下さい。 菌が複数見つかった場合には、 3 種類までの場合は菌1から菌 3にその情報を設定し、4種類 以上の場合には代表的な3種 類を選択の上設定してください。	項目 No.776 「血流1:菌分離 有無」が“1”(有り)のとき JANIS で菌名コード(JANIS ホームペー ジ公開の菌名コード表参照)を設 定して下さい。 菌が複数検出された場合には、 3 種類までの場合は菌1から菌3 にその情報を設定し、4 種類以 上の場合には代表的な 3 種類を 選択の上設定してください。
20 頁、下から 5 行目	「耐性菌判断表」に記載の起炎 菌を選択した場合、耐性有無の 判定基準薬剤の感受性試験結 果は必須となります。(菌2、菌 3および血流2、血流3も同様)	削除
20 頁、下から 2 行目	「血流1:該当/非該当」が“該 当”で、「血流1:培養検査無し」 が“有り”、起炎菌が見つか った場合の検体番号を(わか れば)設定して下さい。	項目 No.777 「血流1/菌1:原 因菌」で登録した菌が検出され た検体番号を設定して下さい。
21 頁、上から 1 行目	項目 No.779 「血流1/菌1:感 受性試験無し」	項目 No.779 「血流1/菌1:感 受性試験有無」【条件つき必須】 (項目 No.777 「血流1/菌1: 原因菌」が “1301” のとき必 須)
21 頁、上から 2 行目	「血流1:該当/非該当」が“該 当”で、「血流1:培養検査無し」 が“有り”、起炎菌が見つか った場合の感受性試験の実施	項目 No.777 「血流1/菌1:原 因菌」で登録した菌の感受性試 験の実施有無を、有り⇒1、無 し⇒2 で設定して下さい。

	変更前	変更後
	有無を、有り⇒1、無し⇒2で設定して下さい。	
21 頁、上から 4 行目	項目 No.780「血流1/菌1:薬剤名1」～項目No.797「血流1/菌1:薬剤名18」	項目 No.780「血流1/菌1:薬剤名1」～項目 No.797「血流1/菌1:薬剤名18」【条件つき必須】(項目 No.779「血流1/菌1:感受性試験有無」が“1”のとき必須)
21 頁、上から 5 行目	「血流1:該当/非該当」が“該当”で、「血流1:培養検査無し」が“有り”、起炎菌が見つかった場合で、「耐性菌判断表」により感受性試験が必要な薬剤を略名(「耐性菌判断表」に記載)で設定して下さい。	項目 No.777「血流1/菌1:原因菌」で登録した菌の感受性試験を実施した薬剤を略名で設定して下さい。
21 頁、上から 8 行目	項目 No.798「血流1/菌1:検査データ1」～項目No.815「血流1/菌1:検査データ18」	項目 No.798「血流1/菌1:検査データ1」～項目 No.815「血流1/菌1:検査データ18」【条件つき必須】(項目 No.780「血流1/菌1:薬剤名1」～項目 No.797「血流1/菌1:薬剤名18」が“MPIPC”のとき対応する検査データは必須)
21 頁、上から 9 行目	「血流1:該当/非該当」が“該当”で、「血流1:培養検査無し」が“有り”、起炎菌が見つかった場合で、項目 No.780 から項目 No.797 の薬剤感受性試験結果をそれぞれ項目 No.798 から項目 No.815 に S/I/R で設定して下さい。	項目 No.780 から項目 No.797 の薬剤感受性試験結果をそれぞれ項目 No.798 から項目 No.815 に S/I/R で設定して下さい。

	変更前	変更後
21 頁、上から 13 行目	「血流 1 : 該当/非該当」が“該当”で、「血流 1 : 培養検査無し」が“有り”、起炎菌が見つかった場合で、行った感受性試験の結果から耐性の有無を「耐性菌判断表」により、有り⇒1、無し⇒2、不明⇒3で設定して下さい。	「血流 1 : 該当/非該当」が“該当”で、「血流 1 : 培養検査有無し」が“有り”、原因菌が見つかった場合で、行った感受性試験の結果から耐性の有無を有り⇒1、無し⇒2、不明⇒3 で設定して下さい。(以前「耐性菌判断表」を用いた判断を調査していましたが、現在は終了しております。)
21 頁、上から 16 行目	項目 No.817 「血流 1/菌 2: 起炎菌」～項目 No.856 「血流 1/菌 2: 耐性判断」	項目 No.817 「血流 1/菌 2: 原因菌」～項目 No.856 「血流 1/菌 2: 耐性判断」
21 頁、下から 14 行目	項目 No.857 「血流 1/菌 3: 起炎菌」～項目 No.896 「血流 1/菌 3: 耐性判断」	項目 No.857 「血流 1/菌 3: 原因菌」～項目 No.896 「血流 1/菌 3: 耐性判断」
21 頁、下から 11 行目	項目 No.897 「血流 2/菌 1: 起炎菌」～項目 No.1020 「血流 2/菌 3: 耐性判断」	項目 No.897 「血流 2/菌 1: 原因菌」～項目 No.1020 「血流 2/菌 3: 耐性判断」
21 頁、下から 8 行目	項目 No.1021 「血流 3/菌 1: 起炎菌」～項目 No.1144 「血流 3/菌 3: 耐性判断」	項目 No.1021 「血流 3/菌 1: 原因菌」～項目 No.1144 「血流 3/菌 3: 耐性判断」
21 頁、下から 5 行目		以降を削除(項目 2269 まで) 項目 No.1145～項目 No.2269 については現在の調査対象、感染症では無いためデータフォーマットの詳細については省略いたします。
31 頁、上から 2 行目	過去に提出したデータの削除やキー情報(患者 ID+ICU 入室日時)に変更があった場合などに、その内容を JANIS シス	一文を削除。

	変更前	変更後
	テムに報告するために使用します。	
31 頁、上から 2 行目		<p>入力支援ソフト上で一度登録したデータを削除した場合、報告ファイル作成時に削除データレコードが報告ファイル内に作成されます。</p> <p>このデータや下記のフォーマットどおり作成した削除データを提出しても、エラーにはなりません。過去に提出したデータの削除は出来ません。</p> <p>過去に提出したデータの削除、該当キー情報(患者 ID+ICU 入室日時)の変更はお問い合わせ(参加医療機関専用お問い合わせフォーム)よりデータの削除依頼をしてください。</p>
31 頁、上から 1 行目		この機能は 2010 年 5 月に廃止されました。
31 頁、上から 6 行目	こちらの項目には[V220]を設定します。	3.1 通常提出データ 項目 No.1 「バージョン情報」参照
31 頁、下から 5 行目	項目 No.4 「調査対象」【必須】	項目 No.4 「調査対象」
33 頁、上から 4 行目	また、JANIS 試行用サイトにて、報告ファイルのテスト送信を行うこともできます。	また、JANIS のデータ送信試験サイトにて、報告ファイルのテスト送信を行うこともできます。

「ICU 部門提出データの概要と作成の手引き (Ver1.4)」 改訂箇所

2012 年 4 月 23 日

	変更前	変更後
1 頁、下から 1 行目	2012 年 1 月	2012 年 4 月
9 頁、上から 5 行目	2012 年 1 月現在、菌名コードが Ver.4.0 であり、これに対応するバージョンは V231 です。	2012 年 4 月現在、菌名コードが Ver.4.0 であり、これに対応するバージョンは V231 です。
9 頁、上から 11 行目	バージョン情報対応表 表内、入力支援ソフト Ver.3.0、Ver.3.1、Ver.3.2	バージョン情報対応表 表内、入力支援ソフト Ver.3.1、Ver.3.2、Ver.3.3
9 頁、上から 13 行目	ただし、入力支援ソフト Ver.3.2 でもマスタの更新により菌名コード ver.3.1 の使用は可能です。	ただし、入力支援ソフト Ver.3.2、Ver.3.3 でもマスタの更新により菌名コード ver.3.1 の使用は可能です。

「ICU 部門提出データの概要と作成の手引き (Ver1.3)」 改訂箇所

2012 年 1 月 11 日

	変更前	変更後
1 頁、下から 1 行目	2010 年 8 月	2012 年 1 月
9 頁、上から 4 行目		上から 4 行目から 14 行目までの説明を追加
9 頁、下から 2 行目	この項目には“V220”を設定します。今後、菌コードや抗菌薬コード、またシステムの仕様が改修される場合には変更になる場合がありますので、その際には JANIS ホームページの案内をご覧ください。	メッセージバージョンを示します。菌名コードや抗菌薬コード、またシステムの仕様が改修される場合には変更になる場合があります。各項目の詳細と注意点を参照ください。

「ICU 部門提出データの概要と作成の手引き (Ver1.2)」 改訂箇所

2011 年 8 月 5 日

	変更前	変更後
16 頁、上から 15 行目	「HHMM」の形式	「YYYYMMDD」の形式
18 頁、上から 8 行目	「HHMM」の形式	「YYYYMMDD」の形式
20 頁、上から 2 行目	「HHMM」の形式	「YYYYMMDD」の形式

「ICU 部門提出データの概要と作成の手引き (Ver1.1)」 改訂箇所

2010 年 8 月 26 日

	変更前	変更後
1 頁、下から 1 行目	2010 年 1 月	2010 年 8 月
9 頁、下から 2 行目	「削除フラグ」【必須】	「削除フラグ」
16 頁、上から 2 行目	「肺炎の有無」	「肺炎無し」
16 頁、上から 4 行目	「肺炎の有無」	「肺炎無し」
16 頁、上から 8 行目	「肺炎の有無」	「肺炎無し」
17 頁、下から 6 行目	「尿路感染の有無」	「尿路感染無し」
17 頁、下から 4 行目	「尿路感染の有無」	「尿路感染無し」
18 頁、上から 1 行目	「尿路感染の有無」	「尿路感染無し」
19 頁、下から 10 行目	「カテ血流感染の有無」	「カテ血流感染無し」
19 頁、下から 8 行目	「カテ血流感染の有無」	「カテ血流感染無し」
19 頁、下から 4 行目	「カテ血流感染の有無」	「カテ血流感染無し」
21 頁、下から 15 行目	「敗血症感染の有無」	「敗血症感染無し」
21 頁、下から 13 行目	「敗血症感染の有無」	「敗血症感染無し」
23 頁、上から 10 行目	「創感染の有無」	「創感染無し」
23 頁、上から 12 行目	「創感染の有無」	「創感染無し」
25 頁、上から 7 行目	「その他の感染の有無」	「その他の感染無し」
25 頁、上から 9 行目	「その他の感染の有無」	「その他の感染無し」
30 頁、下から 7 行目	「削除フラグ」【必須】	「削除フラグ」

「ICU 部門提出データの概要と作成の手引き (Ver1.0)」 改訂箇所

2010 年 1 月 22 日

	変更前	変更後
1 頁、下から 1 行目	2008 年 8 月	2010 年 1 月
10 頁、上から 6 行目	施設コード	医療機関
10 頁、上から 7 行目	施設コード	医療機関コード
10 頁、上から 10 行目	@やカンマ以外	@、カンマ(,)以外
10 頁、下から 3 行目	施設コード	医療機関
10 頁、下から 2 行目	施設コード	医療機関コード